

29Q-pm01

生薬シコン（紫根）の安定供給へむけて：北海道におけるムラサキ（*Lithospermum erythrorhizon*）の栽培・生産のこころみ

○高上馬 希重¹、金 尚永¹、安田 雅人²（¹北医療大薬、²当別新産業活性化セ）

【目的】生薬「シコン（紫根）」は皮膚疾患外用薬（紫雲膏）や貧血、疲労倦怠時の内服薬などに配合される。多年生草本のムラサキ（*Lithospermum erythrorhizon*、ムラサキ科）の根を基原とする。ナフトキノン類のシコニン等が含まれ、抗炎症作用、細胞賦活作用などが知られる。根から紫色の色素成分が得られ植物染料としても利用される。野生植物の分布域は日本国内の広範囲であるが、自生植生の激減のため環境省レッドリストに「絶滅危惧IB類」として分類され自生地保護も行われている。国内での生薬シコンの供給はほぼ全量を中国などからの輸入に依存している。生薬資源の安定供給やトレーサビリティ確保などの観点から、国内の栽培・生産の確立が必要である。従来、栽培の試みはあるが、栽培技術が困難なため大規模な実用生産には至っていないのが現状である。そこで北海道・当別町の栽培農家と共同でムラサキの栽培・生産に向けた取り組みを開始した。

【方法】北海道医療大学薬用植物園にて系統保存していたムラサキ種子を用いた。当別町内の農家20戸で試験栽培を開始した。その後1年生および2年生のムラサキの根試料を採取した。

【結果・考察】1年生植物体では危惧された病害被害はほとんど認められなかったが、2年生で若干の病害欠株が認められた。1年生根は根長20cmを超える個体が認められ、2年生では30cmを超える個体が認められた。成分含量については現在検討中である。